

SHIBAURA

取扱説明書

非常用浄水装置

SMG13AB



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ずこの取扱説明書をお読みください。誤った使い方をすると、事故を引き起こす恐れがあります。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかに当社または当社販売店にご注文ください。

もくじ

○まえがき	1
1. 安全のためにならず守っていただきたいこと	2
2. 各部のなまえ	7
3. 取扱い	
(運転準備)	
3-1. モーターポンプの点検	8
3-2. 吸管の準備	8
3-3. 本体の準備	10
(操作方法)	
3-4. 浄水	11
3-5. フィルタの逆洗	12
3-6. 停止	13
3-7. 水抜き	13
(ご使用の後に)	
3-8. フィルタの取外し・取付	14
3-9. フィルタの洗浄	14
3-10. フィルタの交換	15
3-11. 保管	16
4. 定期点検	
4-1. モーターポンプ	17
4-2. 消毒装置	18
4-3. 動力点検や取水訓練の方法	18
5. 故障の見分け方と対処方法	19
6. 諸元表	22

まえがき

この取扱説明書は、お買い上げいただいた非常用浄水装置で、安全かつ能率的な作業をする手助けとして編集されたものです。

取扱説明書の中には、本機の正しい取扱方法、簡単な点検及び、手入れについて説明してあります。本機を運転する前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を、下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。

これらは安全上、特に重要な項目です。必ずお読みいただき、指示に従ってください。

危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの。

警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの。

注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの。

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの。

1 安全のために必ず守っていただきたいこと

危険

- ・ 本製品は防爆仕様ではありません。

警告

- ・ 修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。
発火したり異常動作してけがをすることがあります。
- ・ お手入れの際は必ずスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。
また濡れた手で抜き差ししないでください。
- ・ 感電やけがをすることがあります。
- ・ アースを確実に取り付け、専用の漏電遮断機を設置してください。
故障や漏電の時に感電する恐れがあります。
- ・ 電源プラグの刃及び刃の取り付け面にほこりが付着している場合は、よく拭き取ってください。
- ・ 定格15A以上のコンセントを単独で使用してください。
- ・ 他の器具と併用すると分岐コンセント部が異常発熱して発火することがあります。
- ・ 使用後は必ずスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ・ ポンプに幼児・子供が触らないように、安全な場所で使用してください。
- ・ このポンプは非常用浄水機以外に使用しないでください。
泥水・海水・灯油・軽油・ガソリン・薬品・酸性／アルカリ性の液体等は使用しないでください。
- ・ 運転中はベンジン・シンナー・ガソリン等の引火物に近づけないでください。火災の原因になります。

注意

- ・ 長期間使用にならない時は必ずスイッチを切り電源プラグをコンセントから抜いてください。
絶縁劣化による感電や漏電の原因になります。
- ・ 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、束ねたりしないでください。
また、重いものを載せたり、挟み込んだりすると、電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
- ・ 空運転(ポンプに水のない状態での運転)はしないでください。
メカニカルシール及びポンプの破損の原因になります。

1 安全のために必ず守っていただきたいこと

注意

モーターポンプ使用上の注意

- ・ 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず先端の電源プラグを持って引き抜いてください。
- ・ 電源コードや電源プラグが痛んだり、コンセントの差込が緩いときは使用しないでください。
感電・ショート・発火の原因になります。
- ・ 交流100V以外では使用しないでください。
火災・感電の原因になります。
- ・ 本体内部に手を入れないでください。
感電の恐れがあります。
- ・ 水をつけたり、水をかけたりしないでください。
漏電や感電の原因になります。
- ・ 運転中は本体に衝撃を与えないでください。
感電や漏電・ショートによる火災の恐れがあります。
- ・ 動かなくなったり、異常がある場合は、事故防止のため、直ちにスイッチを切り電源プラグを抜いて、お買い求めの販売店に点検・修理をご依頼ください。
そのまま使用されますと、感電や漏電・ショートによる火災の恐れがあります。
- ・ 運転中に移動させないでください。
けがの原因になります。
- ・ ポンプの使用液温度は5°C以上60°C以下の範囲で使用してください。
範囲外で使用されますとポンプの破損につながります。
- ・ 吸入・吐出ホースをポンプに接続するときは、製品付属のカップリング、ホースバンドを必ず使用してください。
- ・ ポンプに毛布や布などをかぶせたり、ポンプカバー内に燃えやすいものを入れないでください。
加熱して発火することがあります。
- ・ 運転中や運転直後はポンプ、モーター、及びポンプカバー内の部品に触れないでください。
高温になっていますので、火傷の原因になります。
- ・ 吸入ホースは必ず製品付属のサクシオンホースを使用してください。
- ・ 吸入ホースの先端には製品付属のストレーナを取り付けてください。
- ・ ファンカバーは絶対に外さないでください。
ファンカバーを外したまま運転するとけがの恐れがあります。

1 安全のために必ず守っていただきたいこと

警告

非常時の原水の種類

- ・ 使用原水は、安全性の確認された水を選んでください。
水道水を原水としてプールに貯水されている水が基準です。
- ・ 有害物質(殺藻剤・防藻剤等)が混入している水は使用できません。
- ・ 海水は淡水化出来ません。

注意

非常時の原水の種類

- ・ ろ過フィルタの寿命は水質により変化するので、なるべく濁りや藻類の少ない原水を使用してください。

警告

消毒剤(6%次亜塩素酸ナトリウム水溶液)使用上の注意

- ・ 本剤は強力な漂白、殺菌作用がありますので下記の点にご注意ください。
- ・ 幼児の手の届くところに置かないでください。
- ・ 用途以外に使用しないでください。
- ・ 万一飲み込んだ場合は、大量の水または牛乳を飲ませること、また皮膚についたり、特に目に入った場合はすぐに水で十分に洗い流してください。
いずれの場合もすみやかに医師に相談してください。
- ・ 皮膚についたときは、水で十分洗ってください。
- ・ 使用のときは、なるべくゴム製の手袋をしてください。
- ・ 衣服などに液がつくと脱色しますので十分ご注意ください。
- ・ 容器を強く持ってキャップを開けると、原液がとびだす恐れがあります。

1 安全のために必ず守っていただきたいこと

⚠ 警告

ハウジング(フィルタ内蔵)の取扱いについて

- ・ ハウジングのフタ取付箇所にOリングを正しく取付けてください。
- ・ フタをハウジング上部のOリング上に均一に置いてください。

ずれていると高圧の水が噴出する危険があります。

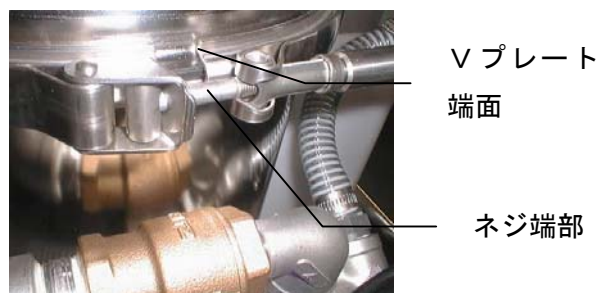
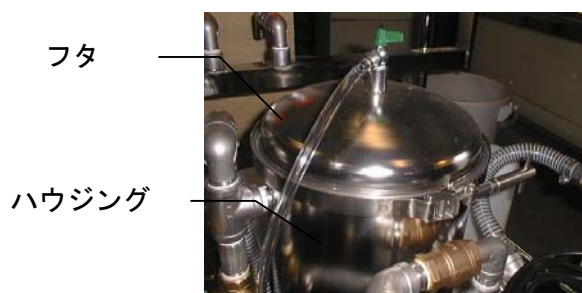
- ・ 運転中に浄水出口の蛇口を閉めないでください。

爆発の恐れがあります。

- ・ Vバンドを強く締め上げてください。

ネジ端部がVバンド丸めプレート端面までねじ込んで、ねじ部が見えなくなるまでしっかり締め上げてください。

締め方が不完全ですと、爆発の恐れがあります



1 安全のために必ず守っていただきたいこと

1-1. 安全ラベル

本機を安全に使用していただくため、本機には安全ラベルが貼ってあります。

安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルははっきりと見えるようにきれいにしておいてください。

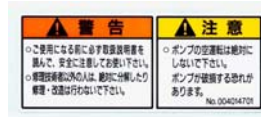
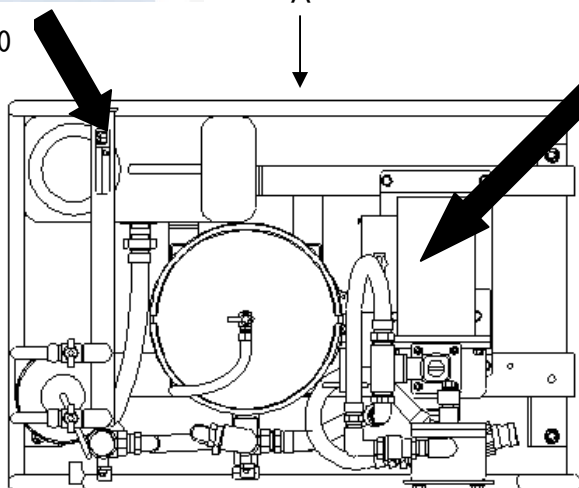
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。

また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しいものを貼ってください。

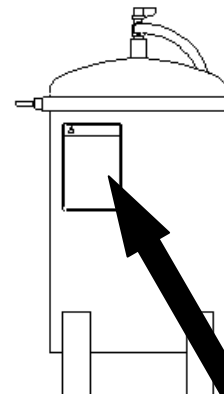
安全ラベルは、お買い上げ販売店にご注文ください。



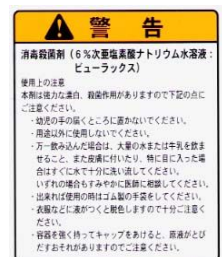
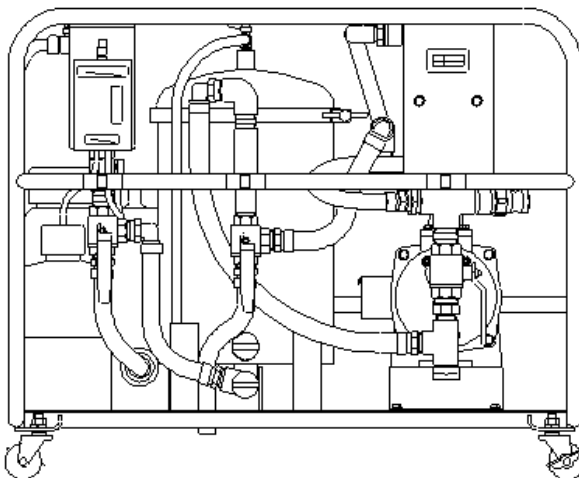
290191870



004014701



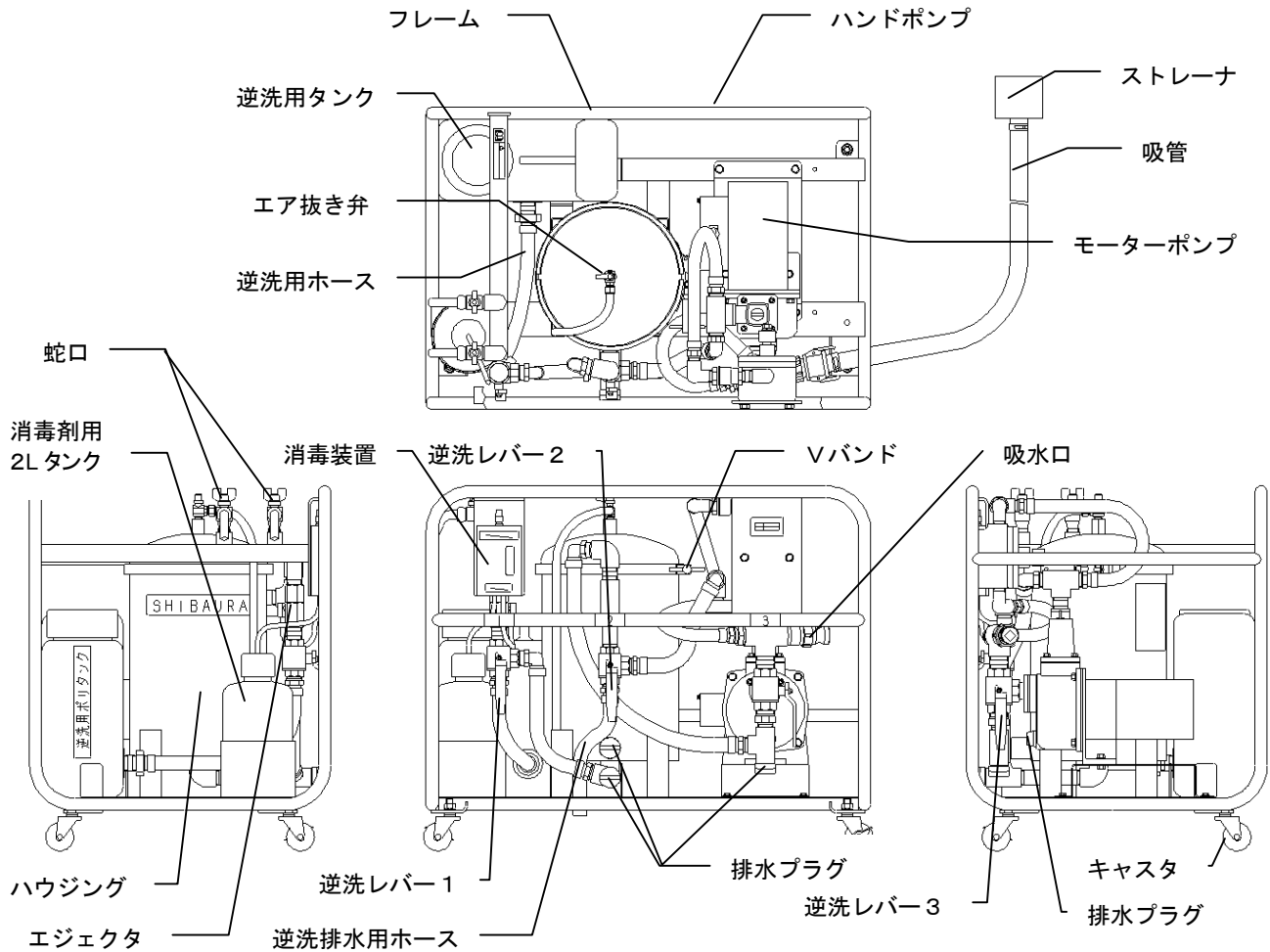
A 矢視



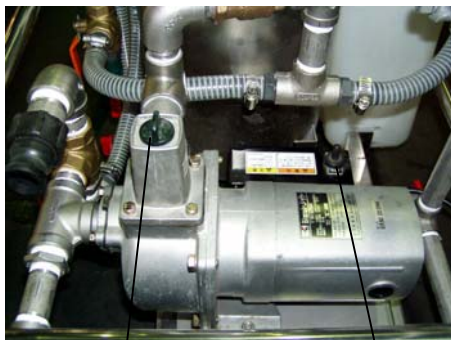
290192110

2 各部の名前

2-1. 外形図



2. モーターポンプ



呼び水口

スイッチ

3. 消毒装置



4. 消毒剤用2Lタンク



3 取扱い（お使いになる前に）

3-1. モーターポンプの点検

- ・ ポンプ上部に銘板が貼付されていますので、ポンプの電圧に間違いがないかを確認してください。
- ・ 電圧が異なりますと性能の低下・故障の原因となります。
- ・ 製品を設置するときは雨や水がかからないようにしてください。
- ・ 漏電により感電やけが・故障の原因になります。
- ・ ホースを接続するときは製品付属のカップリングやホースバンドをご使用の上確実に取付けてください。
- ・ 電源に電源コードを接続する前に必ず設置（アース）してください。
- ・ 延長して電源コードを使用になる場合は、電線は 2mm^2 以下のコードを使用されますと電圧降下のため、過電流が発生し、作動不良、コードの発熱等が発生します。
- ・ ポンプを循環用等の24時間連続運転には使用しないでください。
- ・ 発電器を使用するときはポンプ消費電力の1.5倍～2倍程度の容量をもった発電器を使用してください。
低い容量の発電器を用いると正常に作動しない場合があります。

⚠ 注意

- ・ 接液部を水につけたり、水をかけたりしないでください。
- ・ 電源コードやホースを持って装置の移動を行うと断線やホース抜けが発生し危険です。
- ・ 発電機の取扱説明書を十分お読みの上、正しくお使いください。
- ・ 呼び水を入れずにポンプを運転しますと、ポンプが破損する恐れがあります

3-2. 吸管の準備

(1) 吸管の取付

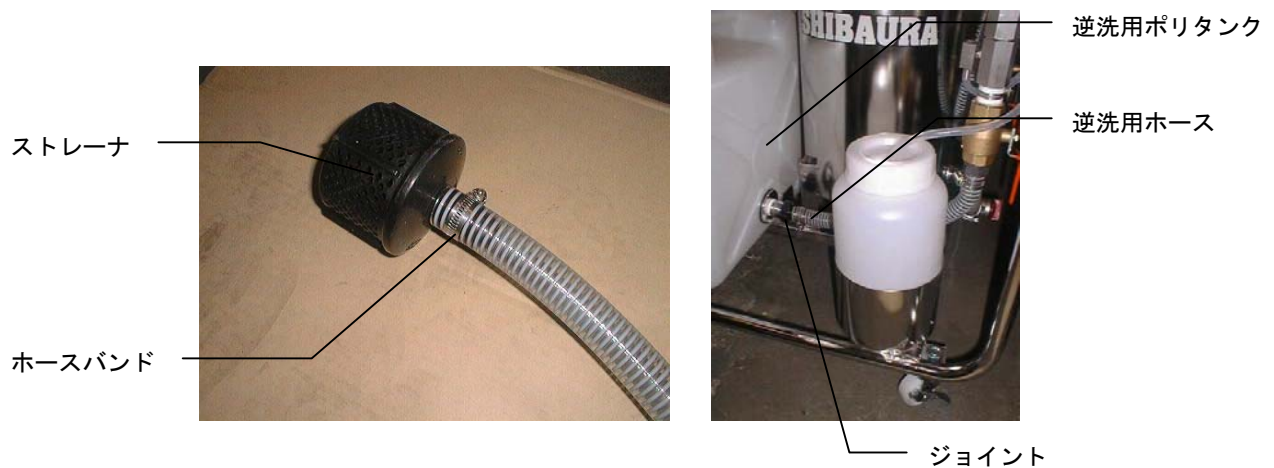
ホースジョイントを吸水口に取付けます



取扱いのポイント

- ・ ホースジョイントを確実に締付け、空気の侵入を防止してください。
- ・ 締付けが不完全だと吸水しない場合があります。
- ・ 吸管の長さは短いほど吸入量が多く、吸水時間が短くなります。極端にホースが長いと吸水しない場合があります。
- ・ 吸水ホースの先端には、ストレーナが取付けてあります。
- ・ ストレーナを外すと土砂やその他の異物などにより本機が損傷する恐れがあります。

3 取扱い（お使いになる前に）



(2)ホースバンド締付け確認

ホースジョイント取付用のホースバンドの締付けにゆるみがないか点検します。

締付が十分でないときには、空気を吸い込み、吸水しない原因ともなりますので確実に締付けてください。

また、ストレーナ取付用のホースバンドのゆるみがないかも点検します。

(3)吸管のストレーナを原水に入れる

吸管の先端のストレーナが原水中に完全に沈むように調整してください。

このとき、ストレーナから水底の泥を吸ったり、ストレーナが水面上に浮いてエアを吸わないように注意してください。

⚠ 注意

非常時の原水の種類

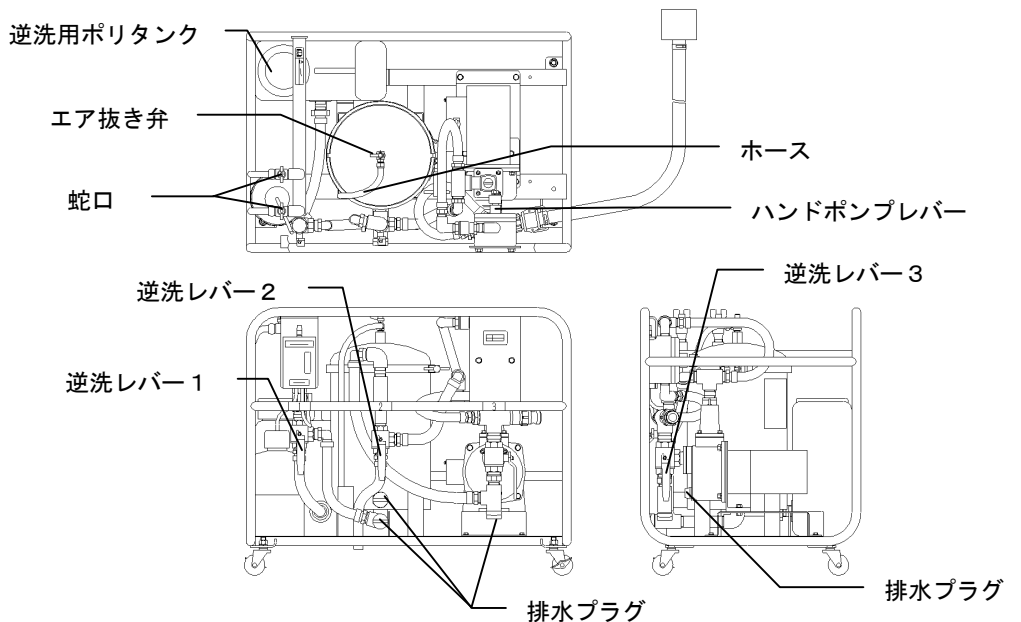
- ・ 使用原水は、安全性の確認された水を選んでください。
水道水を原水としてプールに貯水されている水が基準です。
- ・ 有害物質（殺藻剤・防藻剤等）が混入している水は使用できません。
- ・ 海水は淡水化出来ません。

(4)逆洗の準備

逆洗用ポリタンクに逆洗用ホースの先端にあるジョイントが、しっかり締め付けられていることを確認してください。

3 取扱い（お使いになる前に）

3-3. 本体の準備



(1) 弁の開閉

蛇口（2箇所）を開きます。

エア抜き弁を開きます。

排水プラグ（4箇所）が閉まっていることを確認します。

(2) レバー操作

逆洗レバー1、2、3を反時計方向にまわしてタテにします。

(3) ホース取付

蛇口に生産水ホース(付属品)を取付けます。

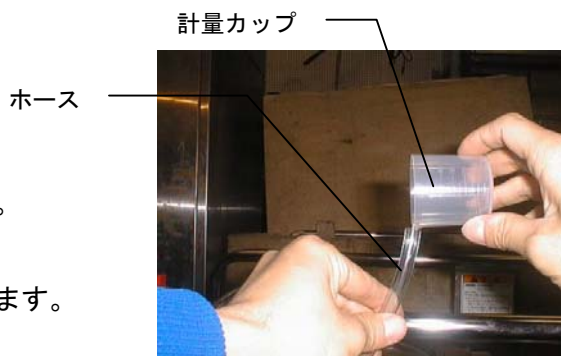
(4) 装置の消毒

計量カップ(付属品)で消毒剤5mLを、エア抜き弁のホースの先端に入れます。

計量カップ(付属品)で消毒剤5mLを、逆洗用ポリタンクに入れます。

(5) 呼び水

モーターポンプ上部のプラグを外し、呼び水をほぼいっぱい（約1.3L）に入れ、プラグを締めます。呼び水のない場合は、ハンドポンプレバーをハンドポンプに取付けてレバーを前後に動かし、モーターポンプに呼び水を行います。30回を目安にレバーを往復させます。



取扱いのポイント

- ・ 呼び水なしでの空運転はしないでください。
- ・ 加熱してモーターポンプのシール部を損傷する恐れがあります。
- ・ 万一空運転した場合は、すぐに呼び水を入れず、ポンプの温度が下がってから入れてください。
- ・ ハンドポンプはエンジンポンプが作動しない場合に、手動用動力として使用できます

3 取扱い（操作方法）

3-4. 浄水

⚠ 注意

- ・ ウォーターハンマーにご注意ください。
- ・ ポンプ運転中にホースを踏んだり、吐出側の弁を急激に締め切ると、瞬間的に大きな圧力が配管内にかかります、これはウォーターハンマー現象と呼ばれ、装置の破損の原因となります。
- ・ 消毒装置の調整ツマミは精密部品のため、“薄い”の方向に強く締め付けしないでください。故障の原因となります。

(1) モーターポンプ始動

蛇口(2箇所)の吐出ホース先端に障害物がないことを確かめた上、モーターポンプのコンセントをAC100V電源に接続し、スイッチを入れてください。

(2) エア抜き

ハウジング内のエアが抜けたら、エア抜き弁を閉めます。

(3) ドレン

装置内消毒用の消毒剤を排出するため、約1分間浄水を排水します。

(4) 消毒剤の調整

消毒剤用2Lタンク内で、消毒剤原液を薄めます。

[方法] 消毒剤用2Lタンクに消毒剤原液50mLを入れた後、蛇口から出た浄化水を消毒剤用2Lタンクの肩口まで入れます。

(5) 消毒装置の調整

蛇口の弁で流量を調整し、消毒装置の調整ツマミを“濃い”の方向へ回して、点滴確認管から消毒剤が1秒間に1~2滴の間隔で滴下されるように調整してください。

(6) 消毒剤の濃度の調整

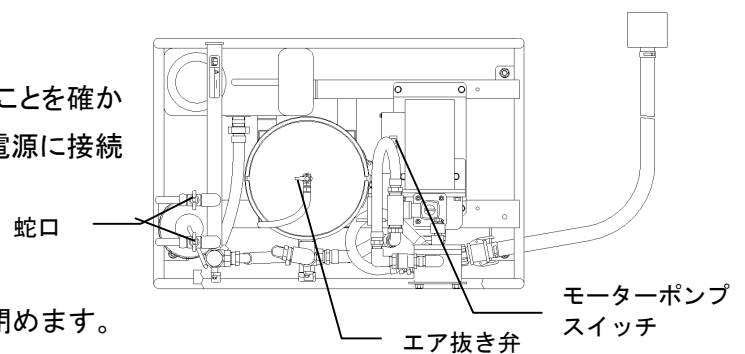
再び必要とする浄水量になるよう、エンジンの回転数を調整した後、残留塩素測定器で残留塩素濃度の測定を行いながら、生産水の残留塩素濃度が、0.1~1.0mg/L(=ppm)になるように再度調整ツマミで滴下量を微調整してください。

(*) 残留塩素濃度測定器取扱説明書を参照してください。

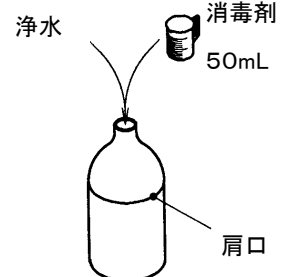
* 以上の操作で浄水が飲用できます。

* 電源が確保できない場合は、ハンドポンプでも浄水可能です。

(ハンドポンプを使用する場合はできるだけ一定の流量で浄水してください)



(4)



(5)



タンク接続チューブ

エジェクタ接続チューブ

3 取扱い（操作方法）

3-5. フィルタの逆洗

逆洗とは、フィルタに浄化した水を逆流させてフィルタの汚れを落とす操作のことです。

(1) 通常の浄水操作を行い、蛇口から浄水を出します。

（逆洗レバー 1、2、3はタテ方向）

（このとき、ハウジング内のエア抜きは必ず行ってください。）

(2) 逆洗用ホースの先端が、付属の逆洗用ポリタンクにしっかり締め付けられていることを確認する。

(3) 逆洗レバー 1 をヨコに向けて、逆洗用ポリタンクに水を入れます（レバーは、時計方向に回します）

(4) 逆洗用ポリタンクが満水になる前（タンクの肩口位）に、逆洗レバー 2 をヨコに向けて排水ホースから水を出します。

（レバーは、時計方向に回します）

(5) 逆洗レバー 3 をヨコに向けて逆洗が始まります。

（レバーは、時計方向に回します）

(6) 排水ホースから水が出なくなったら、逆洗レバー 3、2、1 の順にタテ位置に戻します。（反時計方向に回します）

(7) 通常の浄水を続ける場合は、フィルタハウジングのエア抜き操作を行います。

(1) (6)



(3)



(4)



(5)



逆洗用ホース

3 取扱い（操作方法）

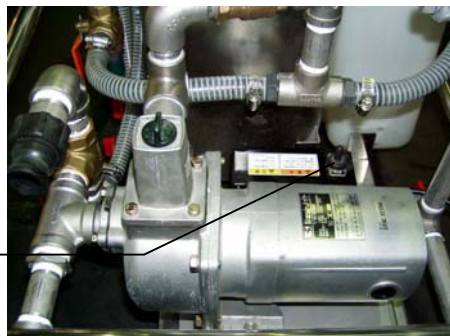
3-6. 停止

(1)スイッチ OFF

モーターポンプのスイッチを“OFF”にします。

電源コードのプラグをコンセントから抜きます。

モーターポンプ
スイッチ



3-7. 水抜き

作業が終わり保管する場合や、凍結の恐れのある場合は、装置内の水を必ず抜いてください。

(1)吸管取外し

ポンプ吸水口から吸管を外します。

(2)ドレン

ハウジングのエア抜き弁を開けます。

排水プラグ4カ所を外して排水します。

逆洗レバー1、2、3 を斜め方向(約45度)にして排水します。

ハウジングのフタを外し、中に入っている活性炭フィルタを外し、中空糸膜フィルタが取り付けられている状態で、水道水による流水でフィルタを含むハウジング内の汚れを洗い流してください。

(分解方法は次ページ参照)

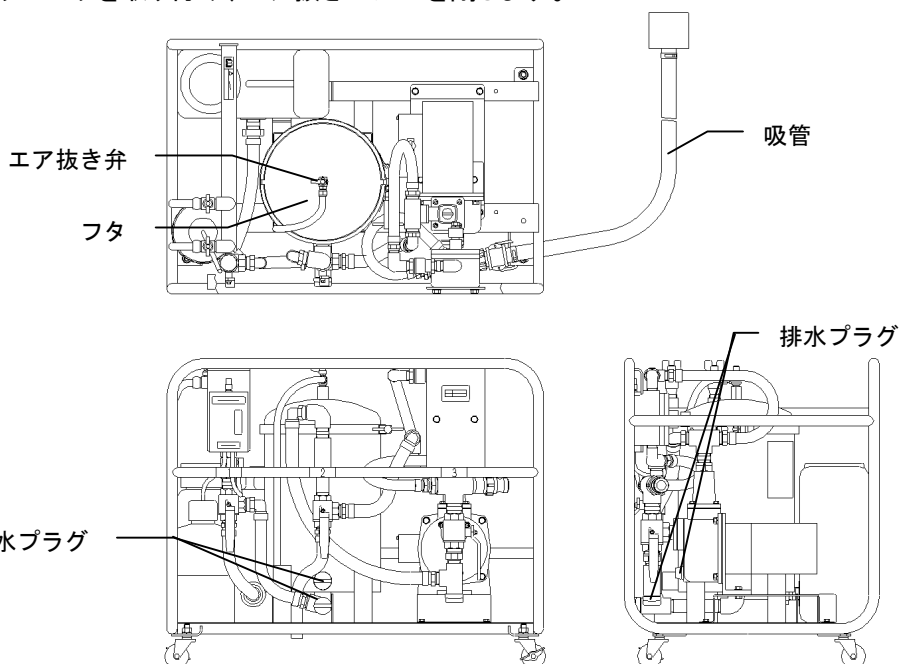
排水が完全に終わったら、逆洗レバーを全てタテ方向に戻し、全ての排水プラグ(4個)を確実に締め付けてください。

(3)フィルタを洗浄します。(フィルタの着脱や洗浄方法は次頁参照)

ハウジングのフタを取り付け、エア抜きバルブを閉じます。

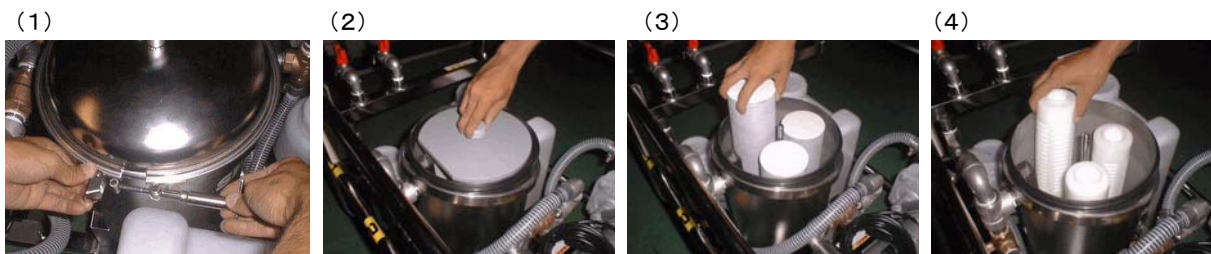


逆洗レバー



3 取扱い（ご使用の後に）

3-8. フィルタの取外し・取付方法



(1) Vバンドを取外し、フタをとります。

(2) 樹脂製ナットを手で外し、プレートを外します。

(3) 活性炭フィルターを抜きます。

(4) 中空糸膜フィルタを抜きます。

(5) フィルタを取付けるときは、フィルタ本体や取付部にゴミがないことを確認してください。

注意: フィルタを取付けるときは、水道水(次亜塩素酸ナトリウムを含有した水)でハウジング内の汚れを落としてからおこなってください。

(6) ハウジングのフタをOリング上に正しくセットした後に、Vバンドで強く締め付けてください。

3-9. フィルタの洗浄

フィルタの表面についた汚れを水で洗い流します。

取扱いのポイント

- ・ 中空糸膜フィルタ洗浄時に中空糸にさわると破損する恐れがあります。直接、中空糸にさわらないでください。



(1) 中空糸膜フィルタ、活性炭フィルタともに水道水または浄水でゆすぐか、洗い流してください。

(2) 洗浄後は2～3日日陰干しをして乾燥させた後、取外した逆の手順でフィルタを装置に組付けてください。

3 取扱い（ご使用の後に）

3-10. フィルタの交換

逆洗をしても浄水の出が悪い場合は、以下の方法でメンテナンスをおこなってください。

(1) フィルタの洗浄

活性炭フィルタ、中空糸膜フィルタを装置から取り外して洗浄します。

（＊フィルタの洗浄、取外し方法は前頁参照）

(2) 活性炭フィルタの交換

フィルタを洗浄しても浄水の出が悪い場合は、活性炭フィルタを付属の新品と交換します。

（＊交換方法は前頁参照）

(3) 中空糸膜フィルタの交換

活性炭フィルタを交換しても浄水の出が悪い場合は、中空糸膜フィルタを新品と交換します。

お買い上げの販売店から新品の中空糸膜フィルタをご購入して交換してください。

（＊交換方法は前頁参照）

＊中空糸膜フィルタを交換しても浄水の出が悪い場合は、お買い上げの販売店にご相談ください。



注意

- 浄水機使用後は水抜きを充分に行ってください。
- 浄水機使用後はフィルターを取外し、凍結しない場所に保管してください。

凍結により浄水機本体及びフィルターの破損の恐れがあります。

3 取扱い（ご使用の後に）

3-11. 保管

装置を使用後に保管する場合は装置内の水抜き後に各部のメンテナンスをおこなってください。

(1) 本体

使用後及び長期にわたって使用にならない時は、必ずモーターポンプのスイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

使用後の排水を確実に行ってください。

冬季に0℃以下になりますとポンプケーシング内や配管内の残水が凍りつき、機器を破損させる恐れがありますので、使用後は必ず排水操作を確実に行ってください。

保管する時は、雨や水などが掛からない場所を選んでください。

また、機器のほこりが付かないようにカバーをしてください。

(2) 消毒剤の排水

消毒剤用2Lタンクに残った消毒剤は廃棄してください。

（* 消毒装置内に残った消毒剤を排出するには、浄水中に消毒剤用2Lタンクに差し込んであるチューブを抜いて、浄水を続けると排出されます）



注 意

- ・ 消毒剤廃棄の際は、原液をそのまま廃棄せず、必ず100倍以上水道水で希釈してから廃棄してください。

(3) 逆洗用ポリタンクの排水

逆洗用ホース端部のカップリングを手で外し、逆洗用ポリタンク内に残った水を排水します。

排水後は再び元の状態に戻してください。

(4) ハンドポンプレバーの収納

ハンドポンプレバーをハンドポンプから外し、ハンドポンプレバーを付属品箱に入れます。

(5) 吸管の収納

モーターポンプ吸水口から吸管を外し、よく水を切った後、付属品箱に入れます。

(6) 浄水装置の収納

浄水装置にカバーをかけて収納してください。

4 定期点検

4-1. モーターポンプ

整流子モーターを使用しているためモーターのカーボンブラシは1000時間程度を目安に交換するようにしてください。

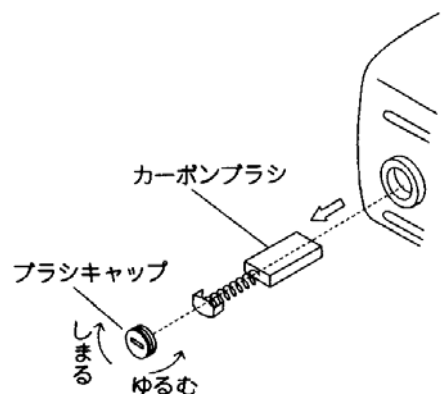
摩耗したカーボンブラシをそのまま使用しているとモーターの力が低下したり、停止したりする原因になります。

カーボンブラシの摩耗状態には常に注意し、カーボンブラシ長さが5～6mm前後になれば新しいものと交換してください。

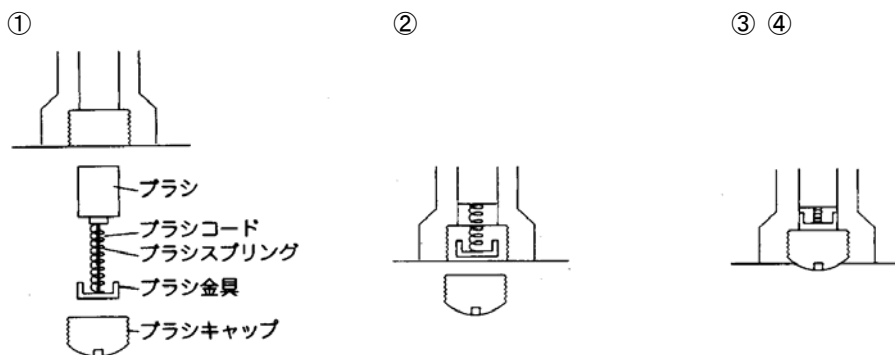
(1) ブラシの交換方法

ブラシキャップをドライバーなどで左へ回し、ブラシキャップを外してからカーボンブラシを引き抜いてください。

逆の手順で新しいカーボンブラシをはめ込み、ブラシキャップを取付けてください。



* ブラシ挿入時の注意事項



- ① ブラシをブラシホルダーに入れます。
ブラシはやわらかい(もろい)ものなので取扱には十分注意してください。
- ② ブラシ金具をさらに押し込んでブラシホルダーに入れます。
この時ブラシスプリングがブラシ金具・ブラシコードに当たらないよう注意してください。
また、ブラシ金具はブラシホルダーの形状にあわせて挿入してください。
- ③ ブラシ金具がブラシホルダーに確実に入っているのを確認してからブラシキャップを確実に締めてください。
- ④ ブラシコードのかみ込みやブラシ金具が斜めに取付けられていると故障の原因となるので、ブラシの挿入には十分注意してください。

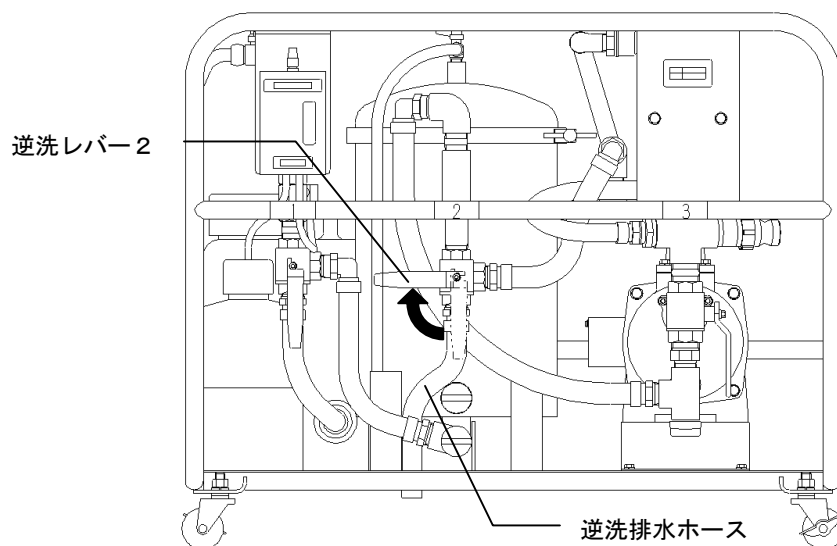
4 定期点検

4-2. 消毒装置

- ・ 消毒装置本体やタンクなどの汚れは、中性洗剤等で拭き取り、いつも清潔にしておいてください。
- ・ 点滴管が汚れると、消毒剤の吸入状態が確認できません。
点滴確認窓から点滴管の表面をきれいに拭いておいてください。
- ・ 消毒用タンク内にゴミなどが入ると故障の原因となります。
消毒剤補給時や掃除の際は、チューブを汚したり、ゴミなどが入らないようご注意ください。
- ・ シリコンチューブが硬化(あめ色)したり、変色(白色)した場合は交換してください。
(シリコンチューブを交換する場合は、お買い上げの販売店までご連絡願います)

4-1. 動力点検や取水訓練の方法

浄水装置の訓練や点検等で、フィルタを使用しないでモーターポンプの動作を確認することができます。



(1) 逆洗レバー 2 を横方向(反時計方向に回す)にします。

(2) ハンドポンプでモーターポンプ内に呼び水を入れます。

(操作方法はP12参照)

(3) モーターポンプを始動します。

(4) 逆洗排水用ホースから水が出ます。

*** 注意:** この水はフィルタを通さない水ですから、飲用できません。

5 故障の見分け方と対処方法

5-1. モーターポンプ

項目	原因	対策
ポンプが回らない	電源が入っていない	電源を入れる
	電源コードの断線・接触不良	修理する
	インペラが異物をかんでいる	分解掃除
揚水量が少ない	吸水側にてエアの混入	吸入側配管類チェック
	メカニカルシールの損傷	メカニカルシール交換
	吸入揚程が高い	高くする
	吸入パイプが細い、または長い	低くする
	水路の漏水	漏れ止めをする
	インペラが異物をかんでいる	分解掃除
	インペラの摩耗	インペラ交換
自給しない	吸入側にエアの吸い込み	吸入側配管チェック
	呼び水プラグの締め付け不完全	十分に締め付ける
	ポンプケース内呼び水不足	呼び水をする
	ドレンコック締め付け不完全	十分締め付ける
	メカニカルシールからエア混入	メカニカルシール交換
ポンプ性能低下	ホースの詰まり、曲げによる損失	ホース内の清掃、曲がりを少なくする
	インペラの摩耗	インペラの交換
	ポンプ内のつまり	ポンプ内の清掃



注意

- ・ ご自分で分解・修理は絶対にしないでください。
- ・ 点検修理はお買い上げの販売店へお申しつけください。

5 故障の見分け方と対処方法

5-2. 消毒装置

蛇口コックをひねっても点滴管から消毒剤が点滴されていないときや、消毒剤の希釈濃度が薄いときは、次のことを確認してください。

確 認 事 項	対 処 方 法
消毒剤用タンクに消毒剤が入っていない	入っていないときは、消毒剤を入れてください
調整ツマミの調節があっていない	調整ツマミを濃くする方向に回してください
チューブがつぶれたり、キズがついている	チューブのつぶれを直し、キズがある場合は、交換してください(※)
タンクにシリコンチューブが正しくセットされていない	シリコンチューブをタンク底まで差し込む
チューブ内にゴミなどのつまり	ゴミなどがつまっている場合は、ゴミを取り除くか、チューブを交換してください(※)
点滴確認窓から見て、点滴管にゴミなどがつまっている	ゴミなどがつまっている場合は、ゴミを取り除くか、チューブを交換してください(※)
エジェクタの吸入口にゴミなどのつまり	吸入口にゴミなどがつまっている場合は、チューブを外し、取り除いてください
蛇口の水量が極端に少ない	蛇口の水量が少なすぎると、消毒剤が吸入されないことがあります、エンジン回転調整レバーでエンジンの回転を上げて流量を増やしてください(※)
蛇口を絞っている	蛇口を全開にして使用してください

* 印の場合や、原因が不明のとき、また※印以外でも工具や部品の都合などで修理が難しい場合は、当社までご連絡願います。

5 故障の見分け方と対処方法

5-3. 浄水装置本体

項目	原因	対策
浄水が出ない	吸管のストレーナのつまり	掃除する
	吸管が山成り配管	ポンプに向かって吸管を上り勾配にする
	吸水高さが高すぎる	吸水高さを下げる
浄水の流量が少ない	吸管のガードフィルタのつまり	掃除する
	吸管の継手のゆるみ	しっかり閉める
	吸水高さが高すぎる	吸水高さを下げる
	蛇口のつまり	掃除する
	チョークの戻し忘れ	戻す
	モーターポンプ不調	販売店に相談する
	蛇口が完全に開いていない	蛇口を開く
	活性炭フィルタが目詰まりしている	逆洗する 活性炭フィルタを交換する
中空糸膜フィルタが目詰まりしている	逆洗する 中空糸膜フィルタを洗浄する 中空糸膜フィルタを交換する	
急に浄水の量が増えた	活性炭フィルタのシールが不完全	フィルタ取付ナットの増し締め
	中空糸膜が破損	中空糸膜フィルタの交換
浄水が原水のおいがる	活性炭フィルタの寿命	活性炭フィルタの交換



注意

- ・ ご自分で分解・修理は絶対にしないでください。
- ・ 点検修理はお買い上げの販売店へお申しつけください。

6 諸元表

6-1. モーターポンプ

項 目	内 容
モ デ ル	MP-25
吸 込 側 口 径	25 mm (1インチ)
吐 出 側 口 径	25 mm (1インチ)
回 転 数	7400 rpm
全 揚 程	最大 35 m
吸 込 揚 程	最大 8 m
最 大 吐 出 量	毎分 100 L
電 源	AC100 V
電 流	11 A
出 力	350 W
外 観 寸 法	325×162×288 mm
感 想 重 量	6 kg

6-2. 消毒装置

消 毒 装 置 本 体	
寸 法	H125×W80×D33mm
材 質	ABS
消 毒 剤 用 2L タ ン ク	
寸 法	φ126×H245mm
材 質	PE

6 諸元表

6-3. 浄水装置本体

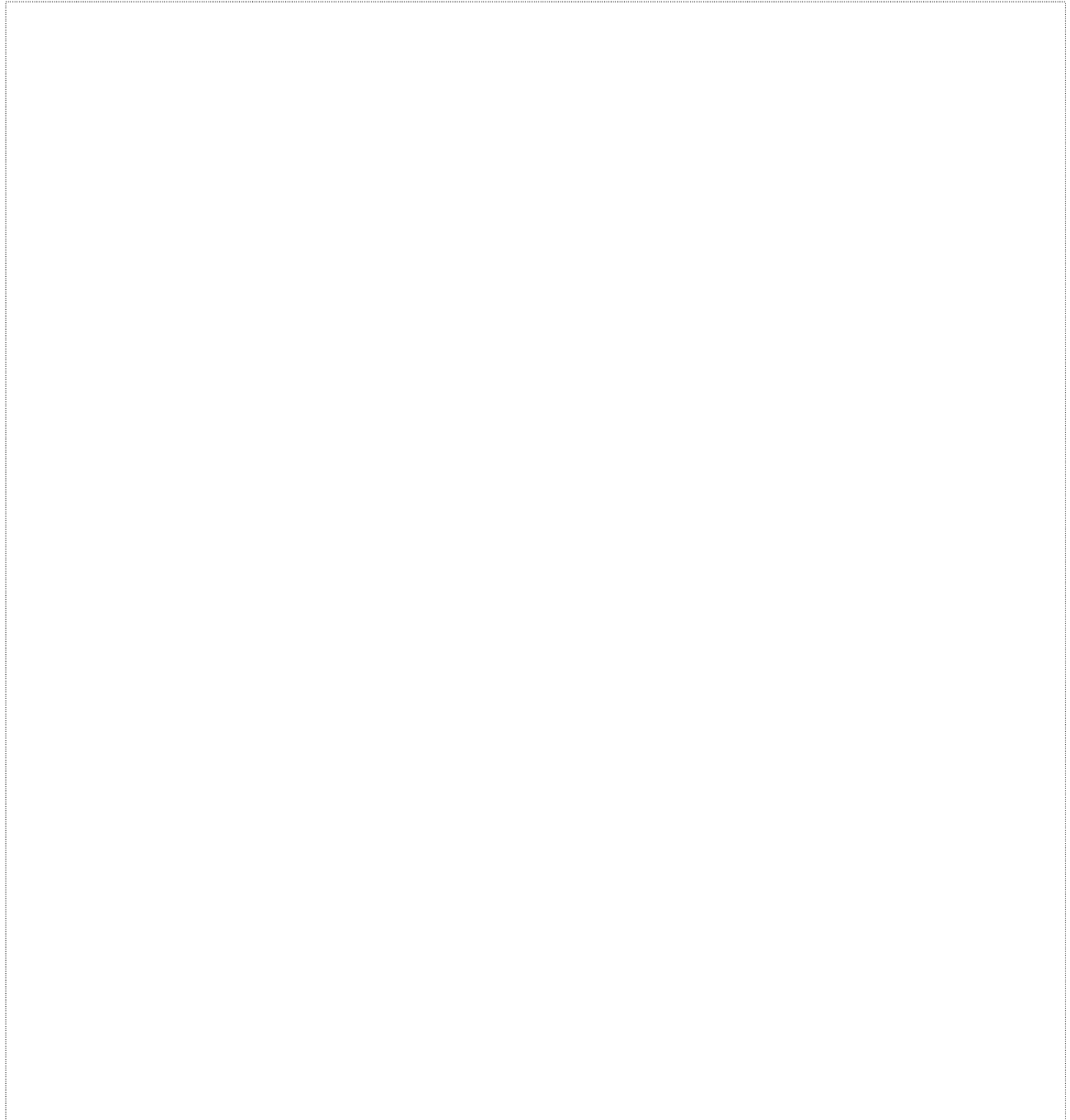
項 目		内 容	
処 理 能 力		2000 L/時 *	
ろ 過 方 式		プレフィルタ+中空糸膜フィルタ+逆洗装置 モーターポンプもしくはハンドポンプによる圧送方式	
フィルタ	活性炭フィルタ	素 材	PETガードフィルタ+繊維状活性炭
		公称孔径	5 μ m
		寸 法	ϕ 90×244 mm
		使用本数	3 本
	中空糸膜フィルタ	素 材	ポリスルホン
		公称孔径	0.04 μ m
		寸 法	ϕ 69×258 mm
		使用本数	3本
フ レ ー ム		SUS304製 丸パイプフレーム	
ハウジング		SUS304製	
モーターポンプ	形 式	自吸式渦流ポンプ	
	全揚程	35 m	
	吸込揚程	最大 8 m	
ハンドポンプ	容 量	240 mL/ストローク	
	吸水揚程	6 m (自吸力2.5m, エア吸水)	
逆洗用ポリタンク	容 量	10 L	
	寸 法	320×145×H335 mm	
消 毒 方 法	消 毒 剤	次亜塩素酸ナトリウム溶液	
	注入方式	エジェクタ方式	
	設置位置	浄水出口	
全 体 寸 法		793×537×H650 mm	
重 量		39 kg	

* 処理能力値は、清浄な水での初期値です。

6 諸元表

6-4. 付属品

品 名		個 数	備 考
2 5	A × 5 m 吸 管	1本	ストレーナ付
	付 属 品 箱	1個	
	プ レ フ ィ ル タ	3本	PETガードフィルタ+繊維状活性炭フィルタ
	生 産 水 ホ ー ス	2本	2 m×2 本
	計 量 カ ッ プ	1個	50 mL
	残 留 塩 素 測 定 器	1個	
	本 体 カ バ ー	1枚	
工 具	ツールバッグ	1個	
	ドライバ	1個	+-両用
	取 扱 説 明 書	1冊	
	簡 易 取 扱 説 明 書	1冊	



株式会社 シバウラ防災製作所

国内営業部

〒390-0846 長野県松本市南原1丁目3番10号

TEL (0263) 29-1072 (直通) FAX (0263) 29-1074

URL: www.shibaura-bousai.co.jp